

昭和四年四月號

工事タイムス

— 鐵 道 —

懸垂電車の計畫 東京單軌高架鐵道の名稱にて資本金5百萬圓を以て東京市外日暮里より三ノ輪、竹屋の波、三圍りを経て洲崎から深川佐賀町河岸に至る8哩間を空中架線に電車を走らし旅客の輸送を目的とする會社創立され鐵道省に出願せし由。

自動車道 自動車道は將來經濟生活の發達と共に有力なる交通施設として普及されるものと期待され最近二、三の會社も計畫を進めつゝあるが、之が監督權は内務鐵道兩省何れの所管に屬するかに就て問題となつてゐたが2月25日鐵道協會代表者は小川鐵相を訪ねて自動車道監督權は鐵道省所管に決定されたい旨建言するところあつた由。

カスケード隧道工事 延長7.78哩の長隧道を約3ヶ年間に開鑿開通した驚異的な現代の工事技術に關しては隧道工事同好家の何人も其詳細を知らんとする處であるが、鐵道省工事課の岡田實技師が在外中の調査報告書は要領を盡したものである。本誌に於ても近く其多數の工事狀況及び寫眞圖を掲載の豫定である。

○伊勢鐵道 は3月上旬津から松坂に至る11哩の建設工事起工式を舉行せし由。

— 建 築 —

朝日新聞社の住宅圖案募集 保健、衛生、防寒、防暑の近代的設備はもとより震災、火

災盜難等に対する最新式設備が考慮された新住宅の建設普及のため新時代の住宅設計圖案を募集しこれを發表實施せんとするもの。

一、想定建築敷地 東京近郊とし敷地面積50坪内外。

一、想定家族數 [甲種] 家族六、七人(夫婦子供二三人 女中一人)[乙種] 家族三四人(夫婦、子供一二人又は女中一人)

一、建築工費 [甲種] 金5千圓以内 [乙種] 金3千圓以内。(給水、排水、電氣、瓦斯等の諸設備並に門、塀、敷地整理等の費用を除き建築工費のみの總額)

一、設計の要求 材料、構造、様式等すべて應募者の隨意とし、募集の趣旨に適する設計、特に臺所、便所、浴室、小兒室等の取扱に新案を求む)

賞 金 金 賞 金1千8百圓(六名)

甲種 三名 各金3百圓宛

乙種 三名 各金3百圓宛

銀 賞 金5百圓(十名)各金50圓宛

締 切 4月20日

審査員 東京美術學校工學博士大澤三之助氏▲建築士工學士中村傳治氏▲建築士理學士工學士堀越三郎氏▲建築士工學士石本喜久治氏▲同社取締役村山長學氏▲同社社會部長鈴木梅四郎氏▲同社計畫部長成澤金兵衛氏 競技顧問 建築士工學士中條精一郎氏

發 表 締切後二週間以内に審査の結果を發表、應募は別に印刷せる詳細規程によられたし、印刷物は同社受付。

復興建築坪380圓 復興建築助成會社の取扱ふ建築が何れも割安であること云ふ事は昨年の本誌にも南工學士の合同ビルに就て詳しい説明があつたが、大體目下の標準は、平均階数が4階で、鐵筋混凝土の耐震耐火構造で、平均坪数は1件約180坪で坪當り單價は約380圓(暖房、昇降機設備なし)である。其内譯は次の如し。

基礎工事費	20圓	} 350圓
構造主體費	130	
内外仕上雜作費	160	
電氣、水道、衛生	45	
瓦斯工事費		

設計監督及 現場係員費	25	工事費の約7%
雜費	5	
計	380圓	

○阪急ビル 大阪驛前の同工事は愈々竣工したが地上100尺の十階建鐵筋コンクリート造り堂ビルと同じ大きさである、工費125萬圓、待合所は廣さ500坪で入口が八箇。

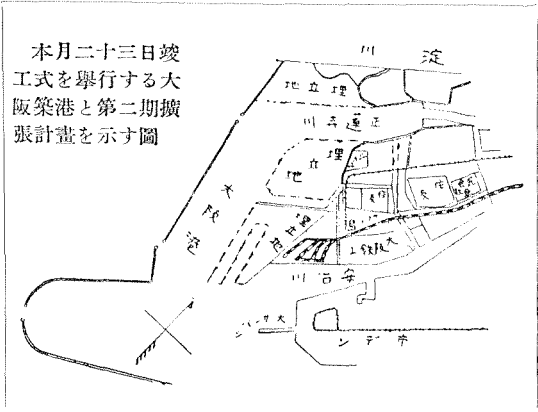
○簡易保險局 は芝區赤羽町有馬ヶ原に鐵筋混凝土3階建延坪25,300平方メートル近く竣工。

1千戸の警官アパート が宮城を中心に放射線上選狀路線の適當な各所に配置される總てコンクリート建て3階の一部を事務所にして公衆電話と便所を設けて一般民衆の使用に供し事務所は交番の代用として非常報知機を備へて民家からの急報に便ならしめ現在7百餘の派出所はこれを廢しこの住宅には本廳から直通電話又は非常報知燈を備へ豫め各住宅の巡查の配屬位置を定めておいて、ボタン一つ押せば直に非常配置につけるやうにする外八時間勤務として休養時間を充分に與へ、戸口調査其他を完全にすれば勿論自警會に於いて購買組合を設けて生活費を輕減し、巡回講師を招聘して婦女にはミシン其他の内職を授け、生活に餘裕を與へ、購買組合の純益金で職業學校を設立して子弟の教育を充分にするといふのである、以上は最近強盜事件に惱まされた警視廳當局の理想案であるが、之も急務の一と見られる。

—— 港灣河川 ——

大阪港の第二擴張 改良計畫の一部に屬する北港土地會社の工事計畫は現在の大阪港灣外目下工事中の市埋立地北方に接して正蓮寺川の左岸に約16萬坪、右岸に15萬坪の土地を埋立て左岸埋立地から400間の距離に約1,600間の防波堤を築き中間に二ヶ所の港口を設け、港内を浚渫し、さらに舊大阪港の接觸點を切離して内港に通せしめ右埋立地を岸壁にして2,000噸から5,000噸迄の巨船を横づけにしようとの計畫で、總工費1,715萬圓、十ヶ年繼續事業、内務省の港灣調査會の決定案に準據したものである。

堂島川可動堰 二月二十七日竣工した大阪市の銚流橋の下手、裁判所前の可動堰は愈々竣工した、この可動堰によつて淀川の流れを堰とめ市内の枝川に注いでその淨化をはからうといふ我國都市には全く類のない工事で各方面から注目されて



本月二十三日竣工式を舉行する大阪築港と第二期擴張計畫を示す圖

る。
可動堰は全長240尺、幅32尺、アーチ形の徑間50尺のもの三つ、同40尺のもの一からなり、各徑間ごとに扇形の鐵の扉があつてこれを下ろすと水流が堰とめられる。

鐵扉の開閉はすべて橋上の塔に設らへた電氣仕掛けによるのでそのボタン一つで鐵扉は自由に動く仕掛けになつてゐる。

大正十四年の起工で工事費85萬圓を要した、市ではこの可動堰のほかに長堀川の末吉橋、江戸堀川の大齋橋、道頓堀川の大黒橋土佐堀川の肥後橋の各附近にも設ける計畫ですでに土佐堀川のダムは工事中で昭和五年度に竣工の豫定である由。

—— 會 と 催 ——

故廣井博士記念事業會 は斯界の先輩550餘名が發起人として盡力せられ、事業資金の募集も大に進行し個人以外の實業方面にも相當の申込ある由なるが、尙ほ私學方面の人々よりも此事業に賛成せられつゝあるは眞に故博士の學徳を偲ぶものである。

技術者資格檢定試験 日本工人俱樂部では昭和四年度の同上試験を來る四月十八日より施行する、科目は土木、建築其他で、實力を以つて進出せんとする技術者の登龍門と目されるものである。希望者は東京丸の内八重洲町一ノ一の日本工人俱樂部宛至急申込まるべし。

第六回全國工業家大會 四月二十一日より三日間廣島市に於て開催する同會は工業政策の諸決議をなして諸種の實行團體を指導する點に於て本年も盛會を豫想せらるゝが本年のプログラムの四月二十一日 偕行社にて大會

工事タイムス

講演會
 羽田別荘にて大懇親會
 四月二十二日 工場視察、陸海軍關係其他
 昭和産業博覽會參觀
 工業懇談會
 四月二十三日 工場視察宮島遊覽其他
 事務所は廣島市千田町高等工業學校内及び東京丸ノ内楽館内工政會、會費1圓、懇親會費3圓、申込4月15日限り。

第二十六回 帝國鐵道協會總會 は5月10日廣島市に於て開催する事に決定、例により鐵道省よりの無賃乗車券其他各地方鐵道會社よりも同様の優待あるを以つて時と場所を得て其盛會を豫想される。總會のプログラムは大要次の如し。

- 五月十日 廣島市前旅行社にて總會舉行、羽田別荘にて懇親會。
- 五月十一日 吳視察。
- 同 十二日 廣島市内視察。
- 同 十三日 宮島より高濱視察。
- 同 十四日 松山より道後視察。
- 同 十五日 琴平視察。
- 同 十六日 高松視察。
- 同 十七日 神戸解散。

○昭和産業博覽會 は今春廣島市に於て開催經費100萬圓と稱せられ地方的のものとしては大規模のものであり殊に陸軍館、海軍館は各數萬圓を投じて國防の通俗的科學説明に便ならしめたものである。此の博覽會を期として全國工業家大會、鐵道協會其他の催あり盛況を期待されてをる。

—— 雜 錄 ——

魚道にエレベーター 庄川水力電氣會社の小牧發電所の大堰堤(高260尺)工事は昨年の工事畫報に詳報したるが、其魚道に就ては各専門家の研究を煩はしたる結果測魚用のエレベーターを建設する事になり、約5萬圓の經費にて堰堤下の或地點に魚の集合場所を造り一定時毎に箆様の器具を附したるエレベーターにて堰堤上に輸送する構造の由。

鹿島組の新築移轉 豫て京橋區南大工町一番地に新築工事中なりし鹿島組本店は此程落成3月1日移轉。新社屋は鐵筋混凝土3階建近代式設計になる堂々たるものである。

メテカルビルデング 入澤醫博の後援で京橋區南橫町三濠に面した處に鐵筋コンクリー

ト6階建延坪521坪工費50萬圓の綜合病院が出来た、この病院の變つてゐるのは經濟的には各科が全く獨立で營業し、事務室、患者待合室及び病室や、多額の費用を要するレントゲン、ラヂウム、手術室等は總て共同使用、藥は各科で發行され處方箋によつて藥局で現金引換へに渡す、その他診察料、治療費、入院料は事務室で徴收し毎月定期二回に各科と經營者側とで使用料と收入金の交互計算をする、つまり個人だけの資本では出来ぬ高價で優秀な設備を共同で備へつけたわけで、醫學博士鍋谷傳次郎氏が在來六ヶ年間の體驗と歐米各國病院の粹をとつてこしらへた病院のデパートメントである、病人側からいへば何科に屬するかハッキリしない場合など大病院と違つて直ちに安い診察費で幾人かの博士の診察を受けられる。

- 多摩川 上流沿岸1千町歩を公園とするに決定建設費20萬圓、東京府市の補助と青梅鐵道の寄附金にて充當六月までに本多靜六博士其他調査。
- 京都 比叡山上10萬坪の地に大正殿を建設する案を一條實孝公の名で出願工費3百萬圓にて設計は京大の天沼工學博士と報ぜらる。

—— 大阪築港工事竣工 ——

難工事の大阪築港 明治30年工事着手以來本年四月の竣工に至る長日月の間に工費約1億を投じたる大阪築港は地質不良の點に於て世界稀なる難工事であつた、先づ防波堤の沈下、埋立地の輕弱大埠頭の横棧橋、一個2萬圓の繫船浮標設置等其他何れも難工事を以て遂に完成した、工事施工上參考の點も多大と思はれる、近刊號に詳報の豫定。

①大阪築港工事 ②大阪市の商工業を背景とする一種の終端港にして淀川改修の毛馬開門付替工事と相列ぶ大工事 ③總工費9千170萬圓を以つて、南北大防波堤延長4千間、埋立地12.8萬坪、水面積19.8萬坪、其他に要する機械設備を有す ④昭和四年四月竣工第二期擴張工事に着手の準備中 ⑤大阪市港灣部長横山徳太郎氏、技術課長松田健作氏 ⑥大阪市港灣部直營工事